



## シリーズ：日常管理のノウハウ

### 第14回 若手から見る世代交代

外山 実千留

筆者が勤める RI 施設は歯学部に所属する小規模な施設であり、共同研究所内の他の施設と兼務の職員はいるものの、専属の職員は放射線取扱主任者1名のみである。このような施設に筆者は定年となる前任者の後任として新卒で就職し、令和2年度で4年目となった。ベテランから若手へ世代交代したなか、引き継いでもらっておいて良かったという前任者のノウハウを紹介したい。これから世代交代を控えている施設に少しでも参考になれば幸いである。

まず、筆者の引継ぎ期間は前任者の意向によって1年間あり、長期間だったため細かく引継ぎを受けることができた。年中行事を一通り行うことができることはもちろんだが、停電や気温によって不調になりやすい機械類を知ることができたことは有益だった。例えば真夏（40℃近い気温が数日続いた）に飼育フードの室外に設置されているクーラーが停止した。このような機械類への対応はベテラン側からすると原因は分かっているため簡単なことだが、新米からすると初めて見る異常であり対応が遅れてしまう。季節によって起こりやすいトラブルは異なるため、1年間の引継ぎ期間は重要だった。

前任者が退職してから現在に至るまでは前任者が残した過去の書類が参考になっている。特に役立つのは高額な施設修繕に係る学内の申請書類である。当 RI 施設は築約40年ほどであり、施設の様々な設備が経年劣化しているため順番に修繕を行っている。施設に配分されている運営費のみで修繕できるものは問題ないが、高額なものは当大学の場合は申請し理事会による承認を受ける必要がある。このような学内書類は当然ながら学内独自のものであるため、前任者にしか分からないノウハウがたくさんあった。例えば予防規程や RI 規制法を引用するときの言回しや提出時期、提出先等、過去の書類がほとんど残っていたことで参考にすることができた。一見すると雑な引継ぎ方なのかもしれないが、過去

の書類の処分は引き継がれる方に任せるという方法にしてくれたおかげで助かっていることは多い。

安全管理以外にも前任者は施設利用者に対して実験の提案、方法の指導等のサポートを行っていた。しかし施設設立当初から勤める40年の大ベテランから RI 使用経験のない新米に代わったことで大幅にこの能力は低下してしまった。利用者を実験の提案をする際に RI でどのような実験ができるかという知識があることが重要だが、RI 実験全盛期を知らない世代にとってはその知識が乏しい。前任者はその点を考慮し、空いた時間に過去の実験の思い出話を語ってくれていた。RI 実験の取っ掛かりをつかむことができれば方法については他の方法で調べることができる。ベテラン世代からすると当然の話かもしれないが、若手にとっては知識の蓄積が必要であるため些細な話でもありがたかった。

前任者からの思い出話の中で東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の話はやはり非常に興味深かった。筆者はその当時大学生にもなっておらず、一般的なニュースで知ることができる知識しかないため現場の人がどのような対応を取ったのかは知らなかった。当大学は岐阜県にあるため直接大きな問題があったわけではないが、当時の学会から得た情報や業界全体の変化等非常に興味深い。当時を知る人にとっては既に語りつくしているのかもしれないが、若手は知らない世代であるため機会があれば是非思い出話を語っていただきたい。

現在の課題である新型コロナウイルスへの対応の記録も下の世代にとって有益になるだろう。当時の個人の想い、感情まで参考となることもある。引き継がれる側の経験を活かし、良い情報を残したいと思う。

（朝日大学口腔科学共同研究所放射性同位元素研究施設）

主任者コーナーの編集は、放射線安全取扱部会広報専門委員会が担当しています。

#### 【広報専門委員】

柴田理尋（委員長）、井原智美、片岡隆浩、出路静彦、福島芳子、藤淵俊王